

1 学校教育目標

かしこく やさしく たくましく

2 目指す児童生徒像

○自分のよさに気づき、そのよさを豊かに表現できる児童生徒…自分を大切にする(自利)

○相手を思いやる心もち、友だちと力を合わせる児童生徒…相手を大切にする(利他)

○生まれてきたことを喜び、家族・地域に感謝・貢献する児童生徒

…家族・地域を大切にする(貢献)

3 育成をめざす資質・能力(具体の姿)

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
	知識, 技能	思考力・判断力・表現力	主体性
後期	・学んだ知識や技能を活用して課題解決することができる。	・未知の状況にも対応できるよう、尋ねたり、調べたりすることで、ものの見方や考え方を広げ深めることができる。	・自分から進んでよりよい自分のやり方を選び、試行錯誤しながら課題解決しようとしている。
中期	・学んだ知識や技能を活用することができる。	・尋ねたり、調べたりして、問題解決に必要な情報を見付け、選び出すことができる。	・自分から進んでよりよい自分のやり方を見付け、課題解決しようとしている。
前期	・学んだ知識や技能を身に付けることができる。	・尋ねたり、調べたりして、関係がありそうなものを見付けることができる。	・自分から進んで自分のやり方を見付け、課題解決しようとしている。

4 研究主題等

(1) 研究主題

自分から進んで課題解決に取り組むことができる児童生徒の育成

～「チャレンジ」(選択肢と自己決定)の取組を通して～

(2) 設定理由

吉浦中学校区では、昨年度まで、研究主題を「郷土を愛し、心豊かで、たくましく生きるため、主体的に学ぶ児童生徒の育成 ～教科等の本質に迫る『考える授業づくり』を通して～」と設定し、小中一貫教育を進めてきた。そして、昨年度「小中で創る『未来の学び』実践事業」の2年指定を受け、本中学校区で何ができるかを考え、これまでの取組を土台としながら試行錯誤の末、研究の方向性を定めるに至った。すなわち、「学びの主体は子どもたち」という原点に立ち返り、個別最適な学びの視点を取り入れ、学びの選択肢を増やし、自己決定させる「チャレンジ」場面を、授業や単元、活動等の中に効果的に仕組む取組である。また、基礎的・基本的な力をつける取組は継続しつつ、「育成を目指す資質・能力」として、「知識、技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性」の3つに整理し、とりわけ研究主題と直結している児童生徒の「主体性」の育成を重点とすることとした。

令和4年度の成果と課題は、以下のような結果として表れた。

【視点1】全国学力・学習状況調査，児童生徒質問紙調査等における肯定的評価が高まったか。

	小学校		中学校	
	1学期	2学期	1学期	2学期
授業で課題を解決するために進んで資料を集めたり取材をしたりする。	78.1%	92.5%	73.9%	77.1%
自分の課題を考え，家庭学習の計画を立てることができる。	84.6%	92.0%	71.4%	73.3%
新しい問題に出会ったときに解いてみたいと思う。	91.9%	92.9%	73.7%	78.4%
自分の考えを表現しようとしている。	85.8%	87.3%	83.5%	84.6%
学んだことを活用しようとしている。	89.8%	92.9%	87.9%	89.3%

【視点2】学力調査での通過率が全国平均以上になったか。

○小学校の標準学力調査

6学年中2学年（1年・2年）が全国平均以上【国語】

6学年中2学年（2年・6年）が全国平均以上【算数】

○小学校の全国学力・学習状況調査の通過率（%）

	国語	算数
小学校の平均	65.0	64.0
全国平均	65.6	63.2

○中学校の標準学力調査（1・2年）及び全国学力・学習状況調査（3年）の通過率（%）

	1年			2年			3年	
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学
中学校の平均	53.4	55.3	50.9	52.3	49.5	42.3	66	47
全国平均	53.7	51.4	51.4	47.5	61.8	51.8	69.0	51.4

3学年中2学年の2教科が全国平均以上【1年数学・2年国語】

【視点3】児童生徒アンケートにおける肯定的評価が高まったか。

○小学校の重点項目に係る意識調査

検証の指標	1学期	2学期
自分には，よいところがあると思う。	85.0%	82.5%
今住んでいる地域には，よいところがあると思う。	97.2%	95.2%
今住んでいる地域のために，地域の行事などに参加している。	82.9%	85.3%
将来の夢や目標をもっている。	91.1%	89.6%
将来の夢や目標に向かって努力している。	85.8%	88.5%
よいことと悪いことを判断し，自分が正しいと思ったことを行っている。	91.1%	91.8%
人の気持ちが分かる人になりたいと思う。	96.7%	98.0%
相手のことを思いやり，親切にしている。	94.3%	94.0%
学校のきまりを守っている。	93.9%	94.1%
みんなで協力して，学習したり生活したりしようとしている。	95.9%	96.8%
自分の役割や責任をもって取り組もうとしている。	96.7%	94.5%

○中学校の重点項目に係る意識調査

検証の指標	1学期	2学期
自分には、よいところがあると思う。	84.2%	90.0%
今住んでいる地域には、よいところがあると思う。	92.5%	93.1%
今住んでいる地域のために、地域の行事などに参加している。	67.6%	73.1%
将来の夢や目標をもっている。	73.7%	73.1%
将来の夢や目標に向かって努力している。	73.7%	76.1%
よいことと悪いことを判断し、自分が正しいと思ったことを行っている。	91.7%	92.3%
人の気持ちが分かる人になりたいと思う。	97.7%	94.6%
相手のことを思いやり、親切にしている。	94.7%	95.4%
学校のきまりを守っている。	93.2%	96.1%
みんなで協力して、学習したり生活したりしようとしている。	90.9%	97.7%
自分の役割や責任をもって取り組もうとしている。	91.6%	96.9%
今住んでいる地域に、貢献しようとしている。	79.5%	82.1%

視点1において、小・中学校ともに、「授業で課題を解決するために進んで資料を集めたり取材をしたりする。」の項目で肯定的回答が大きく伸びた。昨年度、特に中学校での肯定的回答が70%に満たなかった状況から考えると、タブレット端末の使用にも慣れ、自分のやり方や課題解決につながる方法を自分で見つけられるようになった生徒が増えているためと言える。また、「新しい問題に出会ったときに解いてみたいと思う。」の項目の肯定的回答も、小・中学校ともに1学期より上昇している。さらなる学習意欲の向上に向けて、基礎・基本の定着を図るとともに、個々に選択し、やると決めたことを最後までやりきらせる取組や、よりよく課題解決するための道筋をつける機会を増やす必要がある。また、教職員は、実際にやってみてどうであったかを児童生徒に聞きながら、チャレンジと授業改善を連動させて進めていく。チャレンジ等の効果的な取組については、全教職員のものとなるよう、情報の共有化や意識統一を図る。

視点2では、学力調査の結果から、依然として全国平均を下回った学年、教科が多いものの、一部で上回った学年・教科が出始めている。分析を丁寧に行い、改善ポイントを明確にして、計画的かつ継続的に、それらのポイントを取り入れた授業を行う。

視点3においては、「今住んでいる地域のために、地域の行事などに参加している。」の項目の肯定的評価が小・中学校ともに向上した。今年度も、新型コロナウイルス感染の影響を受けて中止となった地域の行事もあったが、少しずつ可能な形での実施により回復傾向にあるためと思われる。中学校の「今住んでいる地域に、貢献しようとしている。」の項目では、1学期より2.6ポイント上昇した。主に総合的な学習の時間における取組を通して、地域の方の思いに触れたり、地域に暮らす自分について考えたりする機会が増えたためと考えられる。「みんなで協力して、学習したり生活したりしようとしている。」の項目では、小・中学校ともに96%以上が肯定的回答をしていた。個の選択や判断に委ねる場面を増やすことで、児童生徒間における自然な協働や助け合いが増えている表れとも考えられるので、今後様々な視点から検証していく。

以上のことから、今年度も、基礎的・基本的な力を継続して伸ばしつつ、小中連携をさらに図り、中学校区一丸となってチャレンジしていく。

(3) 研究仮説

総合的な学習の時間を中心にカリキュラム・マネジメントを推進し、児童生徒が自ら選び自分で決めて挑戦する「チャレンジ」(選択肢と自己決定)の取組を継続的かつ効果的に行えば、自分から進んで課題解決に取り組むことができる児童生徒を育成することができるであろう。

5 研究内容

確かな学力推進部会【授業改善・評価】

① 教科等の本質に迫る「考える授業づくり」【授業改善】

ア 主体的な学びのための多様で効果的な指導方法の工夫

(ア) 児童生徒実態や個に応じた課題の設定

(イ) 考えを広め・深め・つなげるための効果的な発問の工夫

(ウ) 「めあて」「チャレンジ(選択肢と自己決定)」「振り返り」の充実

② 学習指導要領の趣旨を踏まえた評価の在り方【評価】

豊かな心教育推進部会【計画・開発】

① 教科横断的なカリキュラム・マネジメントの推進【計画・開発】

ア 総合的な学習の時間を中心に、各教科等教育活動全体を通して、郷土についての理解を深め、そのよさに気付かせる。

③ 積極的な生徒指導及び集団づくりの推進【計画・開発】

ア 教育相談の充実(QUの活用等)

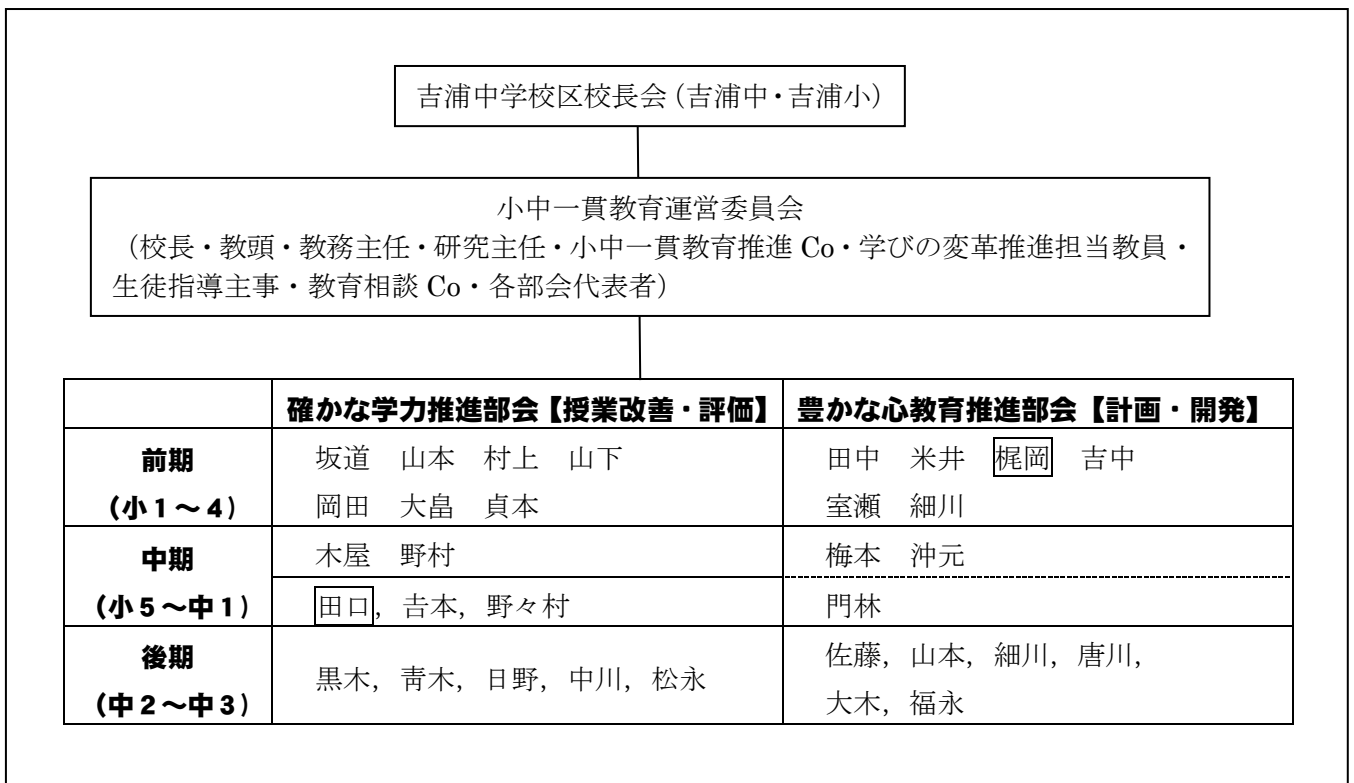
イ 学級活動や児童会、生徒会活動を充実させ、自己肯定感を高める。

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
【視点1】主体的な学びに関わる項目で肯定的評価が高まったか。	教師意識調査 (5月・12月)	教師の肯定的評価	小 70%→100% 中 100%→84%	肯定的評価 80%以上 (12月)
	全国学力・学習状況調査及び「基礎・基本」定着状況調査等, 児童生徒質問紙調査(4,5月)	児童生徒の肯定的評価	小 8～9割 中 7～8割	肯定的評価 80%以上 (12月)
【視点2】児童生徒の学力が向上したか。	○標準学力調査 小学校：1月 【国語・算数】 中学校：6月と1月 (3年は11月) 【国語・数学・英語】	全国平均との差 あるいは前回実施調査との差	全国平均を下回る (一部教科・学年除く)	○小学校 全国平均以上 ○中学校 全国平均以上の教科・学年が6月より増える
【視点3】重点項目に関わる意識調査で肯定的評価が高まったか。	教師意識調査 (5月・12月)	教師の肯定的評価	小 90%→100% 中 89%→100%	教師の肯定的評価が5月実施より上昇(12月)
	児童生徒意識調査 (5月・12月)	児童生徒の肯定的評価	項目の76% が上昇 (昨年度56%)	児童の肯定的評価が5月実施より上昇(12月)

7 推進体制等

(1) 推進組織



※各部会代表者

(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等 (中→小, 小→中)

○ 中学校教員による乗り入れ授業

・ 吉浦小学校第6学年 算数科, 外国語科 (各1時間 2・3学期実施)

○ 小学校栄養教諭による中学校の乗り入れ授業実施

・ 吉浦中学校1年各学級 →1時間 (計2時間)

・ 吉浦中学校2年各学級 →1時間 (計2時間)

・ 吉浦中学校3年各学級 →1時間 (計2時間)

イ 小学校教科担任制等

○ 実施計画なし

(3) その他

○ 長期休業中の中学校補充学習に小学校教員が参加

8 推進計画

月 日	実施内容	備考
4月 7日	小中一貫運営委員会	
4月18日	○全国学力・学習状況調査	
4月25日	○第1回全体会 (年間計画・研究推進・各部会の研究推進計画の作成)	

5月	○全国学力・学習状況調査 英語「話すこと」及び質問紙調査（中学校） ○QU実施（中学校・1回目） ○児童生徒への意識調査アンケートの実施及び分析 ○教師意識調査の実施及び分析	
6月	○広島県「基礎・基本」定着状況調査質問紙調査	
6月16日	○第2回全体会 吉浦小学校 授業研究（算数科）木屋教諭	指導主事
7月	○保護者対象アンケートの実施及び分析	
7月	小中一貫運営委員会	
8月	○第3回全体会（指導案検討）（8月4日） ○吉浦中オープンスクール（部活動体験）	指導主事
9月22日	○第4回全体会 吉浦中学校 授業研究（社会科）山本教諭	指導主事
10月	○QU実施（中学校・2回目） ○さつまいも収穫交流会（小1・中2） ○第5回全体会 吉浦小学校（10月13日） 授業研究（総合的な学習の時間）梶岡教諭他	指導主事
11月	○第6回全体会 吉浦中学校（11月2日） 授業研究（総合的な学習の時間）門林教諭他 ○吉浦中学校区研究公開（11月14日）	指導主事 指導主事
12月	○研究のまとめ開始 ○児童生徒意識調査アンケートの実施及び分析 ○保護者対象アンケートの実施及び分析 ○教師意識調査の実施及び分析	
1月30日	小中一貫運営委員会（研究のまとめ・成果と課題の整理）	
3月	○令和6年度研究推進計画立案	

8 その他

- ・小中一貫教育だよりを年に2回、発行する。（1学期，3学期）